

## 刈払機の作業開始～注意事項

### 1. 作業始めの最初の確認

- 1) 刃の確認: チップソー外径 230mm(端数 36、刃の先端に硬いチップ付き)  
チップの欠落確認: 3ヶ以上外れは NG  
ナイロンコードカッター(ひも状で回転、小石を飛ばすので 道路脇では使用しない)  
取付けネジボルトは左ネジ(反時計回りで締める、回転は反時計回り)、ボルトの締め確認、  
安定板・刃押え金具を確認  
工具: 組立レンチで初動前に締付け確認: 緩み・ガタツキがないこと  
グリスは定期的に補充
- 2) 肩掛けベルトの調整: 作業しやすい適切な位置、離脱装置に異常がないことを確認
- 3) 飛散防止カバーは刃から 10～15cmが基本、
- 4) ハンドルの確認: ガタつきなく確実に取付けられていることを確認
- 5) 燃料はガソリン+1/50 オイルを使用、燃料 80～90%の補給、満タンで 60 分以内の使用、

### 2. エンジン始動

- 1) プライマリーポンプを数回 10～20 回 押して燃料を送る
  - 2) スロットルレバーを始動位置(低速位置)にする
  - 3) チョークレバーを閉(始動)にする
  - 4) スターターハンドル(ヒモ)を引く
  - 5) エンジン始動後にチョークレバーを開にする
  - 6) アイドリングが安定するまで低速回転で 2 分ほど暖気運転する
  - 7) スロットルレバーを低速にする
  - 8) 運転停止ボタン(ストップボタン)を押してエンジン停止を確認
- 始動前点検・始動・運転・停止方法を理解し、覚えて、正しい使用方法で作業

### 3. 服装・装備

- 1) 頭や顔を保護するヘルメット・フェイスカバー・保護メガネ着用
- 2) 体を保護する長袖・長ズボン
- 3) 防振手袋着用
- 4) 脚を守るすねあてや安全靴(長靴)

### 4. 作業の開始、注意事項

- 1) 作業員距離は近距離で近づかない 10m以上離れる
- 2) 右足を前に、半歩ずつ、すり足で、肩幅で進む、(左足からの前進もあり)
- 3) 刈り巾: 50 cm～100cm、右から左に刈る、草は左に纏める、
- 4) 石・木・金物・空き缶などは避ける、事前に除去作業
- 5) 草やヒモが絡んだ時は、必ずエンジンを止めて除去して、再スタート
- 6) 刈払機の一連続操作時間は、おおむね 30 分以内  
刈払機の作業時間を1日2時間以内とする。

○刈払機の正しい使い方【日本農業機械工業会】を参照: 事前に閲覧するとよい

## 刈払機を安全に使うための基本

2020 年 11 月 里やま応援団 高木 喜久雄

### ①安全は格好から

- ・袖締まりをよくする。飛び散ることがあるのでその対策を。  
(目を守る。飛んだ石が他にぶつかることなど)
- ・機械は安定して肩から下げる。その位置は使いやすい？

### ②刃を使うのは前方左側、3 分の 1 のみ。これを前提にすべてを考える。

- ・右側は使わない。右前方はキックバックを起こしやすく、危険。
- ・右から左へ移動しながら刈り、終わったら初めに戻って、繰り返す。  
(反対側には進まない)
- ・往復刈りはしない。
- ・足の動かし方： 前へ 左右
- ・斜面は上に向かって刈る。(下に向かっては刈らない)  
急な斜面では機械は使わない(手作業でやれ)
- ・木や石などの周りは、すぐ近くまでは機械で刈らない。余裕をもって残し、後は手作業でやれ。そういう時のために、刈り込みバサミを用意しておくとし便利。
- ・刃は左側を5～10度下げて傾ける。
- ・大振りをしたり、打つ・叩くなどはしない。
- ・背の高い草を刈る時は、見えない下に何があるか分からないので、2度刈りをする。  
ある程度高いところ(腰か、その下くらいか)で刈り、邪魔者や危険物がないかを確認してから、もう一度刈る。
- ・刃を高く持ち上げての作業はしない。

### ③作業している人の半径 5 mは危険区域とする。つまり、5m以内には近寄らない。

作業している人に用があつて、声をかける時は特に注意。機械の音で、聞こえないからと言って、近づいて、後ろから肩をポンポンと叩くのは絶対にダメ。  
笛を吹くなり、離れたところから小石を投げて、相手に気づかせ、エンジンを止めてから近づくこと。

### ④何かあったら、すぐエンジンを止める癖をつけよう。

- ・ツルなどが絡んだら、それを取る時は必ずエンジンを止めよう。
- ・刃が回転していなくても、エンジンがかかっているときは絶対に刃には触らない。

### ⑤その他

- ・チップソーなど、刃が一つでも欠けたら使わないのが基本。3つ欠けたら絶対ダメ。  
振動がひどくなる。里やま応援団の中でも、半分近く欠けた刃を使っている例がみられる。
- ・刃が欠けた時に。新しい刃に交換することは当然としても、今の時代、切れ味・の落ちた刃を研ぐことを考えるより、新しい刃を買って交換してしまおう。  
最近では交換用の刃は安くなっている。研ぐ手間を考えると、その方がお得と思う。
- ・作業終了後は、燃料を抜き、エンストするまで空ぶかしをする。  
(とにかくエンジン内の燃料を空にしておく)
- ・回転変換部にグリスを注そう。

## 刈払機作業の安全

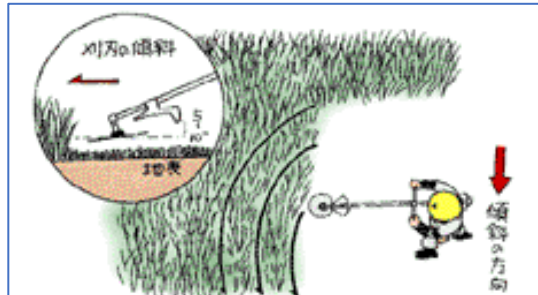
刈払機の正しい使い方【日本農業機械工業会】を参照

<https://www.rinsaibou.or.jp/safety/method/method4.html>

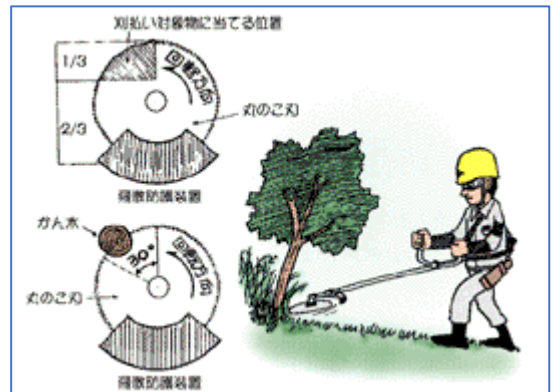
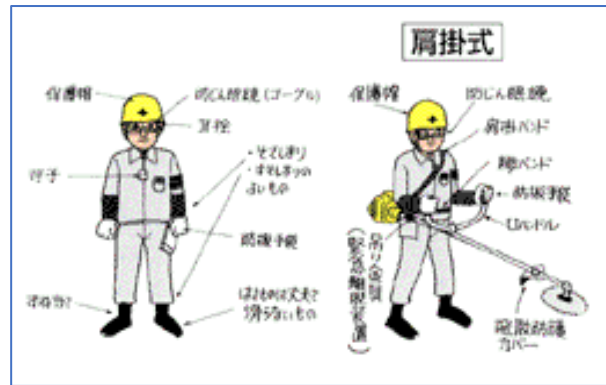
1) 林業で使用する刈払機は転倒などによる災害が多いことから肩かけ式腰バンド付き、Uハンドルの刈払機を使用することが安全です。

2) 対象物を刈払う刈刃の位置は、安全に切断できる部分で行います。

3) 刈幅は、約 1.5mとし、刈幅の中央よりやや左側(斜面の場合には、やや下方)に立って、右から左に2～3回に分けて刈り払います。大振りや刈刃でたたく方法は止めましょう。また、刈り払い対象物を左側(斜面方向)に倒しながら進みます。



4) 刈刃の回転方向と反対の方向に刈り払うのは止めましょう。したがって、往復刈りは止めましょう。



5) 刈払作業中は、作業員から5m以内を危険区域とし、この区域内に他の作業員を立ち入らせないようにします。



6) キックバックや滑りを起こし易いか刃の部分で、かん木等を切断するのは止めましょう。



7) 急傾斜地では、斜面の下方に向かって刈り進むのは止めましょう。



8) かん木等を刈払機で切り倒す場合は、切断部の直径が8cm程度以下のものとします。



9) 跳ね返るおそれのある  
かん木、枝条等を刈り払う  
ときは、あらかじめ、反発力を  
弱めてから切り倒します。

#### 10) 刈払機の日立て

刈払機がその性能を十分に発揮するためには、正しく目立てをした刈刃を使用することが大切です。

#### 11) 刈払機の点検・整備

刈払機は、定期的に点検し、点検結果に基づいて整備して、常に最良の状態で使用することが大切です。点検・整備を十分行うことは、労働安全衛生を確保する上で不可欠であり、機械の故障を防ぎ、長持ちさせるためにも大切なことです。

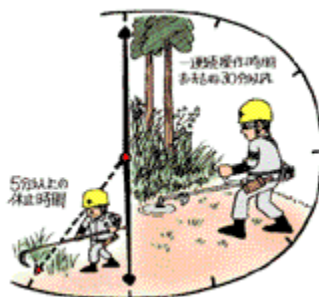
#### 12) 刈払機による振動障害予防のため 次のことを守りましょう。

(1) 刈払機は、防振機構を備え、できるだけ振動及び騒音の小さなものを選びます。

(2) 刈払機の使用にあたっては、それ以外の作業と組み合わせて、  
刈払機を使用しない日を設けます。刈払機の作業時間を  
1日2時間以内とします。



(3) 刈払機の一連続操作時間は、  
おおむね 30 分以内とし、  
一連続作業時間の後、  
5分以上の休止時間を設けます。



(4) 刈払機のハンドルは、軽く握るように操作します。

(5) 作業中は身体を冷やさないようにし、作業開始時及び作業終了時に、手、腕、腰等の運動を主体とした体操を行います。